

理事会・通常総会を開催しました

6月3日(月)に平成25年度第1回理事会・総会を開催しました(於:北とぴあ(東京都北区))。

当日は、運営会員、賛助会員及び特別会員や関係者の皆様約80名の出席をいただき、総会での審議事項は、すべて原案どおり承認されました。

また、次のとおり理事、顧問の異動がありました。

●理事の辞任

宇井純一氏(三井住友海上火災保険(株)、河合義雄氏(㈱ニチレイ)、寺嶋晋氏(マックスバリュ東海(株))の3名

●理事の選任

大内山俊樹氏(㈱ニチレイ)、中込洋氏(三井住友海上火災保険(株))の2名

●顧問の委嘱

丹羽宇一郎氏

なお、開催結果の詳細につきましては、別途会員の方々に近日中に連絡します。



写真: 総会の様子

J-PAO 白書を公表

6月3日(月)に開催された総会の席上で、当機構の活動報告書「平成24年度J-PAO白書」を公表しました。

このJ-PAO白書は、平成22年6月の初回発行から数えて、4回目の発刊となり、平成24年度の活動報告及び、過去の相談を分析することで、農業者にどのような支援ニーズがあるのかを明らかにし、具体的な対応と課題を取りまとめています。

J-PAOでは、今後も「プロ農業者」の課題解決に向けて、実践・試行の中から知恵を出し合い、総合的な支援を継続してまいります。

この冊子を手にとられた方から忌憚のないご意見、ご叱声をお待ちしています。

*平成24年度J-PAO白書を公開しています。

J-PAOホームページのバナーをクリック下さい。

専門部会の動き (5月分)

5月15日に毎月開催しているJ-PAOの企画運営委員会(理事輩出法人等の実務担当者会議)が日比谷図書文化館で開催されました。通常は、委員会終了後に専門部会(テーマ別の小集団)を開催しておりますが、今回は参加者が4つのグループに分かれ、今後の専門部会で取り扱うテーマについての意見交換を行いました。参加者それぞれが抱く農業者支援への思いは様々で、検討テーマも多くの案が出されました。

これらの意見を事務局で取りまとめ、今後の専門部会を開催していく予定です。



写真: 意見交換の様子

Facebook ページ 毎日投稿中

会員の皆さまとの情報共有と、J-PAOの活動を広く周知するため、4月よりJ-PAOのFacebook ページを開設しています。

現在、Facebook ページでは事務局の日々の活動状況などを毎日投稿しており、中には約260名の方に閲覧いただいているものもあります。

今後は、事務局の活動報告をはじめ、会員の皆様方の各種案内など幅広くご紹介していければと思っております。

また、皆様からのコメント投稿もお待ちしています。

<https://www.facebook.com/JPAO.JPAO.JPAO>

主な活動 (5/2~6/10)

5/15 第70回企画運営委員会

5/16 鳥取県高等学校農業教育会(後藤)

6/3 平成25年度第1回理事会、総会

6/6.7 相馬第4回たまねぎ講演会(山下、豊田)

6/10 田辺商工会議所異業種交流会(後藤)

往復書簡

今回は、竹崎 修央氏（高知県、有竹崎農園）と当機構理事長の高木勇樹との往復書簡2回目です。

拝啓 高木 勇樹様

お返事ありがとうございます。

東京も春の気配から初夏の気配が感じられる季節になってきたでしょうか。まだ時折寒い日があり体調管理も大変です。

こちらは、早生のコシヒカリも田植えが終わり田圃が緑色になってきました。これからは中生のヒノヒカリの田植えの準備が始まります。

ハウスの果菜類も昨年から今まで収穫をしてきましたが、残り一・二ヶ月と今期の栽培も終わりが近くなり、ラストスパートに入りました。

高木様にお返事いただき、農業が十年前と比べてどう変わったかについては、切り口や見る人、見る方向によつて変わらんだと思います。地元は農業県でなおかつ県内一の専業農業率の地域です。この地域で野菜生産農業法人は自分のところだけです。そのため、少し地域の農家とは規模も考え方も違います。

そもそも大きくしようと思ったのは、二十代前半に行つたオランダの農業とアメリカの農業を見てからでした。今思うと良いことも悪いこともありましたが、今からだとなかなか二十代の時のような考えにはなりません。しかし、若い時にやろうと思つたのは良かったと思います。地域のほとんどの農家は、海外の農業を見に行く人はいませんが、県外の農業を見に行く人も少ないです。僕は若い農家には出来るだけ

外に出て他の農業を見るのも勉強だぞとよく言っています。もつと若い農家が他の地域農業を見て頑張ってもらいたいのです。

自分も頑張らなくてはいけませんし、後継者を育てなければなりません。息子が継げる農業経営ができればいいのですが、息子もやりたい事があるみたいですから、他人でもやる気のある者に経営を継いでもらえればと思いますし、継いでもらえるような農業法人にするように頑張りたいと思います。

今後もし指導宜しくお願いします。

平成二十五年五月吉日

敬具

竹崎 修央(たけざきのぶお)

有限会社竹崎農園(高知県)

一九六八年 高知県安芸郡芸西村生まれ

一九八七年 タキイ園芸専門学校卒業

一九八七年 就農

現在(有)竹崎農園でナス、ピーマン、ニラ、シヨウガ、マンゴーを生産しております。



拝復 竹崎 修央 様

連休もあつという間に過ぎ、東京も夏日の気温が珍しくない日が続く、今日この頃です。

貴兄におかれては、田植え、野菜栽培と超々多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。

しかも毎年気象は同じであることはなく、気の安まる時はないのではと思います。

日々忙しく動き、働いていると、誰しも「変化」を感じる暇もないというのが実感でしょう。何年か経って振り返ってみてはじめて身の回りの変化（アナログからデジタル、ケイタイからスマホなど）や周りの人の生活の変わり方などから、ああこんな変わったんだと思うことが多いのだと思います。

最近、特にこの変化のスピードが早まっているように感じるのには私だけではないはず。

貴兄のように、正に春秋に富む若い時に、海外の農業をみたりして自らの経営を冷静に観察することが出来れば、若さの力で、失敗を恐れず思い切った変化に挑戦するのです。

この行動の差が時間の経過とともに経営内容、考え方の大きな差になるのだと思います。

また、自らのものさし、感性を豊かにし、失敗も成功の糧にしようののだと思います。

貴兄が目指しておられる経営のかたちは、私が思い描いている、農業を産業として、持続する経営を行う「持続的農業経営体（農地、人、技術、企画販売力、管理能力を経営資源とする総合知識集約産業）」だと思えます。

このような経営体では人材育成は最も大事で、経営を継ぐ者は、息子さんでも他人でも、やる気のある者なら可能となりますし、むしろそのような人材が自然と育つようになると思います。

貴兄の作り上げた事業とその理念は、きちんと継承され、時代の変化に対応しながら持続する農業として、地域の雇用の場、活力の源になり、発展を続けることを確信しています。期待しています。是非成し遂げて下さい。

平成二十五年五月吉日

敬具

高木 勇樹（たかぎ ゆうき）

一九四三年 群馬県生まれ
一九六六年 東京大学法学部卒後農林省入省。食品流通局砂糖類課長、大臣官房企画室長などを経て、食糧庁管理部長、畜産局長、大臣官房長、食糧庁長官など

歴任。

一九九八年 農林水産事務次官、二〇〇一年退官
二〇〇二年 ㈱農林中金総合研究所理事長
二〇〇三年 農林漁業金融公庫総裁、二〇〇八年同公庫退任
二〇〇七年 NPO法人日本プロ農業総合支援機構副理事長
現在、NPO法人日本プロ農業総合支援機構理事長などの立場から、わが国農業・農村の活性化、食の問題の解決に向けた活動に尽力。

